

令和元年度大学コンソーシアムやまがた第1回幹事会議事録

日 時：令和元年6月3日（月）13：30～14：10

場 所：ゆうキャンパス・ステーション及びテレビ会議

出席者：委員長 安田 弘法（山形大学）

副委員長 野村 真司（東北芸術工科大学）

嶋貫 修（山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学）

大桃 伸一（東北文教大学・東北文教大学短期大学部）

委 員 太田 裕子（羽陽学園短期大学）

上條 利夫（鶴岡工業高等専門学校）

神田 直弥（東北公益文科大学）

菅原 和彦（山形県）

椎谷 亨一（山形県立産業技術短期大学校）

松田 茂（山形県立産業技術短期大学校庄内校）

後藤 義昭（山形県立農林大学校）

小幡 知之（山形工科短期大学校）

欠席者： 伊藤 文明（山形県立保健医療大学）

藤原 茂樹（放送大学山形学習センター）

栗山 恭直（企画会議委員長／山形大学）

井上 榮子（ダイバーシティ推進ネットワーク会議議長／山形大学）

陪席者： 橋本 祥子（山形県総務部学事文書課主事）

出口 毅（山形大学副学長）

伊藤 雅彦（山形大学教育・学生支援部長）

松田 敦子（山形大学教育・学生支援部学務課長）

事務局： 齋藤幸太郎、西田 靖子

会議に先立ち、事務局から会議成立の報告があった。

議題

【報告事項】 1 平成30年度事業報告について

議事に先立ち、安田委員長から本コンソーシアムの目的、総会及び幹事会の審議内容について会則に基づき説明があった。

続いて、事務局から資料1に基づき、報告内容は3月に報告した内容とほとんど同じであること、また、最後の山形県補助事業への協力・実施において、3月にイオンモール天童で行ったPRイベントの報告書を報告10に追加した旨の説明があった。

【協議事項】 1 平成30年度収支決算（案）について

事務局から、資料2に基づき以下の説明があった。

（説明内容）

【収入】 について

- ・高等教育機関等PRイベント支援事業の補助金 500,000 円について、支出決算額が 477,126 円となったため 22,874 円減額補正とし、収入決算額合計は 10,056,285 円となった。

【支出】について

- ・「地域貢献・活性化事業」について、「やまがた夜話」及び「プロスポーツを活用した地域活性化活動」の精算で 1,380 円の減額補正とした。
- ・「連携事業」について、単位互換履修学生交通費の精算分 11,200 円減額が主な理由として 11,705 円の減額補正とした。
- ・「大学コンソーシアムやまがた運営費」について、事務局運営共通経費が前回より 115,108 円減額になったことが主な理由で 129,309 円の減額補正とした。
- ・「ゆうキャンパス・ステーション運営費」について、事業推進費の 9,797 円減額が主な理由として 10,376 円の減額補正とした。
- ・「高等教育機関等PRイベント支援事業費」について、支出額の精算結果が 477,126 円となったため、22,874 円を減額補正とした。
- ・これらの補正額は、収入予算補正額 22,860 円分を除き予備費へ繰入れた。
- ・以上の結果、収入決算額 10,056,285 円から支出決算額 7,166,207 円を差し引いた 2,890,078 円が、令和元年度への繰越額となる。

協議事項1について、特に質疑応答、意見等はなく承認された。

【協議事項】2 監査報告について

事務局から、平成30年度の会計監査について、本監査の前に事前監査として、5月15日に県の学事文書課から収入・支出決議書等すべての書類をみてもらったこと、その後、5月21日に山形県総務部長の三浦監事、5月22日に米沢栄養大学長の鈴木監事から本監査をしてもらったこと、及び6月末の「定期総会」に報告してもらう旨の説明があった。

【協議事項】3 令和元年度事業計画（案）について、

4 令和元年度収支予算（案）について

委員長から、本協議内容は3月5日の幹事会、4月25日の臨時幹事会で審議してもらい、その内容に基づく資料を5月16日に各委員へ送付したが、特に意見はなかった旨の説明があり、次いで事務局から資料4から資料8まで以下の説明があった。

（説明内容）

資料4 令和元年度事業計画書（案）

- ・事業計画書（案）は、第3期事業計画に基づき作成しており、原則として平成30年度事業を継続する。
- ・「地域貢献・活性化事業」について、(1)学生による地域貢献・活性化プロジェクト、(2)やまがた夜話、(3)小学生を対象とした体験型学習の開催は各機関に公募して実施計画を提案してもらい実施したい。また、(4)プロスポーツを活用した地域活性化活動の開催は、「モンテディオ山形杯雪中柵田サッカー大会」を開催予定。なお、ほかのプロスポーツとの連携事業については、県の補助金を視野に入れて、令和元年度は企画を募集して令和2

年度開催に向けた準備をしたい。

- ・「連携事業」につて、(1)単位互換の推進、及び(2)大学等進学説明会は継続して実施する。なお、大学等進学説明会は今年度16高校からの希望がある。
- ・「教職員の交流・連携事業」について、(1)第16回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムへの参加では、今年度熊本学園大学で行われ1名は参加していただきたい。また、(2)FD、SD研修の開催及び参加に関しては、今年度も各機関へ企画募集をしているが現在までないため引き続き募集をする。また、コンソ機関の教職員が参加できるものを情報提供していく。
- ・「広報事業」について、(1)ゆうキャンパス広報パンフレットの作成、(2)ゆうキャンパスホームページ等の充実・管理、(3)ゆうキャンパス・ステーションの充実は平成30年度と同様の活動を行うとともに、ゆうキャンパス・ステーションの移転に関する情報を発信していく。
- ・「男女共同参画推進事業」について、平成30年度に設置した「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を活用し、令和元年度も山形大学男女共同参画推進室と共同して進める。
- ・「協力事業」について、(1)「日本一さくらんぼ祭り」は、今年度も県から協力依頼があったので、協力事業として挙げた。また、(2)留学生受入拡大に向けた協力は、3月の幹事会で山形県から本コンソーシアムへ協力要請があったもので、できる限りの協力することとしており、3月の幹事会資料に本事業を追記した。
- ・「ゆうキャンパス・ステーションの移転」について、移転時期について、引っ越しを1月末に行い、2月1日の開設を予定している。

資料5 ゆうキャンパス・ステーションの移転費用及び令和元年度、令和2年度の負担金について

- ・移転費見込額について、臨時幹事会で説明した額と同額の4,018,420円。また、新拠点での2月、3月の2か月分の運営費は30,000円とした。
- ・経費負担について、移転費4,018,420円及び新拠点運営費の負担棲み分けは、前回説明のとおり「ゆうステ運営費」より3,058,000円、「機関負担金(会費)」より990,420円としている。
- ・令和元年度「機関負担金(会費)」について、令和元年度の機関負担金(会費)は平成30年度同様の積算による額とし、今回の資料6となる。
- ・令和元年度「ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金」について、臨時幹事会で「平成30年度と同様に従前の機関が負担する」とされた。今回の資料7となる。
- ・不足額への対応案について、臨時幹事会での審議内容を踏まえ、委員長から不足額については次年度以降の予算で対応することとし、機関負担金(会費)の積算基準に関しては、機関の規模に応じた従前の積算基準を基礎にすることにして、これを3年で償還することではどうかとの提案があった。このシミュレーションを5月半ばころまでに示して、6月の第1回幹事会に諮ることとされ、この資料を5月16日に送っている。また、今年度の不足額830,000円は山形大学から立替えてもらい、令和2年度から3年で返済する旨の相談をした結果、山形大学から了承が得られた。
- ・令和2年度からの予算について、機関負担金(会費)に一本化して運営することとし、積

算方法は、従前の負担割合を基準にして算定することになっている。

資料6：令和元年度機関負担金（会費）（案）

資料7：令和元年度ゆうステ運営費負担金（案）

- ・令和元年度機関負担金（案）は、従前の機関割、収容定員割に基づく積算で算定した。
- ・令和元年度ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金（案）は、臨時幹事会で平成30年度と同様に従前の機関が負担するとしていたが、資料5で説明のとおり不足額830,000円を山形大学から立替えてもらうため、山形大学は今年度2,990,000円の負担額となる。

資料8 令和元年度収支予算書（案）

【収入】

- ・「機関負担金収入」は、4,310,342円、「ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金」は、山形大学の立て替え分を含んだ3,790,000円となる。また、「繰越金」は、資料2の収支決算書の額2,890,078円。これに雑収入30円を加えた10,990,450円が収入予算額となる。

【支出】

- ・「地域貢献・活性化事業」について、「学生による地域貢献・活性化プロジェクト」は、前年度と同額の300,000円とした。また、「やまがた夜話」、「小学生を対象とした体験型学習」及び「プロスポーツを活用した地域活性化活動」は平成30年度と同額のそれぞれ200,000円、50,000円、50,000円を計上している。
- ・「連携事業」は、単位互換履修学生交通費は平成30年度実施を踏まえ100,000円減額とした。
- ・「教職員の交流・連携事業」は、全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムが熊本市で行われるため、前年度開催の北海道函館市より50,000円増額として1名分の参加旅費150,000円を計上した。また、FD、SD研修に講師謝金としてそれぞれ30,000円の計60,000円（前年度50,000円）を計上した。
- ・「広報事業」は、パンフレット作成として前年度の実績額を踏まえた300,000円を計上した。
- ・「新拠点移設事業」は、資料5の2経費負担で説明した移転にかかる費用960,420円を計上した。
- ・「大学コンソーシアムやまがた運営費」は、総会等会議開催費を昨年度の100,000円から30,000円に、また、事務局運営共通経費を昨年度の700,000円から600,000円に減額し、2,882,000円とした。
- ・「ゆうキャンパス・ステーション運営費」は、山形むらきさわビル賃貸借料及び管理費等を来年1月までとして減額計上している。
- ・「新拠点運営費」は、来年2月から新拠点となる「遊学館」の2か月分の運営費30,000円を計上している。

以上の経費を収入予算から差し引いた額を予備費393,869円として、支出予算合計を10,990,450円としている。

協議事項3、及び協議事項4について、特に質疑応答、意見等はなく承認された。

【協議事項】5 令和2年度機関負担金（会費）（案）について

委員長から、令和2年度においては、従前の事業をそのままに遂行しつつ、令和元年度立替金の返還及び新拠点運営費を機関負担金（会費）から支出することになるため、機関負担金を見直す必要がある。このことについて、先の臨時幹事会で規模の小さい機関を考慮して従前の機関割、収容定員割の積算方法を踏襲するという意見があり、事務局で試算したものが資料9となる旨の説明があった。

続いて事務局から、資料9の内容について説明があった。

（説明内容）

- ・資料5の6で令和2年度の予算（「機関負担金」について）の考え方を示したとおり、立て替え分の返還額280,000円と新拠点運営費360,000円を合わせた640,000円が従前の機関負担金に増額する必要がある。
- ・その方法として、従前の機関負担金の積算方法を踏まえて、臨時的な措置として機関負担割の増額分をわかるように機関割増加額欄を追加し示した。
- ・今回、機関割のみを対象に積算とした理由は、機関の規模に応じた負担割合が考慮されていることと、3年後にまた機関負担金を見直す時に、収容定員割の一人当たり単価もいじると複雑な積算になってしまうことから、見直しやすい積算となるように考えたもの。
- ・山形大学への返還方法は、機関負担金から相殺する形で行う。
- ・最後にある参考資料は、現時点における令和元年度から令和5年度までの各機関の機関負担金見込み額をシミュレーションしたもの。

このことについて、委員長から本案は、県の機関の予算要求に間に合わせるために6月の総会に諮って了承を得ておく必要がある旨の説明があった。

協議事項5について、特に質疑応答、意見等はなく承認された。

以上

【配付資料】

資料 No. なし

- ・幹事会委員名簿
- ・大学コンソーシアムやまがた会則
- ・臨時幹事会議事録（平成31年4月25日開催）

資料1 平成30年度事業報告書

資料2 平成30年度収支決算書（案）

資料3 監事監査に関する資料（5月22日：監事監査）

資料4 令和元年度事業計画書（案）

資料5 ゆうキャンパス・ステーションの移転費用及び令和元年度、令和2年度の負担金について（案）

資料6 令和元年度機関負担金（会費）（案）

資料7 令和元年度ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金（案）

資料8 令和元年度収支予算書（案）

資料9 令和2年度機関負担金（会費）（案）

参考 機関負担金（会費）及びゆうキャンパス・ステーション運営費負担金（令和元年度～令和4年度）（案）

議事録署名人

幹事会委員長／山形大学理事・副学長

子田弘法